

【優 秀 賞】



氏 名 トウ セイ

国・地域 中国

在日期間 7 ヲ月

所 属 国際交流員（薩摩川内市）

タイトル：マリオの故郷にやっときた私

会場の皆様こんにちは：

まず、皆さんにお聞きしたいことがあります。赤色と青色の服を着た、あるキャラクターが渋谷スクランブル交差点で緑の土管に飛び込んで、地球の反対側に現れたシーンを見たことがありますか？この巧みな発想はリオオリンピックの閉会式に登場しました。日本文化のシンボルの一つであるマリオの姿を生き生きと見せ、素晴らしいアイデアだと言わざるを得ません。日本と世界の距離をぐっと縮めるとても印象的なシーンでした。私はこのシーンを見て、いつかマリオのように、緑の土管を通して、他の国に来て、自分のことを語ることができる素晴らしい未来が待っているのかなとワクワクしました。

ついに、今年度、緑の土管を通して、新ステージの扉を開け、現代中日文化の異文化理解にきました。薩摩川内市に来て、あっという間の 6 ヶ月間に、色々な体験をしました。乗車券の到達地点を買い間違えて、駅から出られなくなった時、駅員さんに助けてもらったこと、川内南中学校の講座で話した内容を校長先生に認められたこと、8 年ぶりに大学時代の日本人先生と再会したことなど、まるでマリオゲーム中でキノコを食べて、食べるほど自分が大きく強くなっているかのように成長していると思っています。

私が生まれた 90 年代にインターネットが世界中に拡大し、IT 産業も大きく成長しました。中国で最も使われている支払決済アプリ Alipay は、私達の決済方法だけでなく生活習慣、就職方法までも変えました。Alibaba の創始者である馬雲氏は、「時代の発展とともに、中国社会でいくつかの職業はもうなくなりました。」と言いました。少し極端な例では「泥棒」という職業です。キャッシュレスの社会では、泥棒の仕事を続けると飢え死にするかもしれません。ここまで言うと、皆さんは決済方法という技術面の転換が、異文化理解と、どのように関連しているのかという疑問をお持ちだと思います。それは、決済方法の転換によって、新文化の台頭があり、決済方法が創造した社会環境の変化は、新文化が盛んに発展する土壌でもあります。これが現代中日文化の違いの一つであり、現代中国文化を理解する重要な要素だと、私はそう考えています。でも、異なる文化は障害になるのではなく、ウィンウィンの協力関係にすべきだと私は思います。違う文化があるからこそ、私達の生活は豊富多彩なものとなり、人生もパワフルなものとなります。

来日後、私が経験する一つ一つの仕事はマリオゲームの色々なステージをクリアするようなもの、私の体験も多くなります。この間、職場の同僚から「文化の違いで、講演中聞く側がリア

クションしてくれないことと心配していますか」と聞かれました。「全然心配していません。」と答えました。その理由の一つは、私自身は中国文化の一部であり、自然な私自身を見せることが大事だと思うからです。さらに、もう一つは私の大好きな言葉「not different country, only different people」は旅行中タイの観光業者さんから聞きました。初めて聞いた時、すごく衝撃を受けました。どんな文化交流でも、結局は人同士の交流だという意味です。この言葉は認識と知識が国を超え、国籍を越えた存在だと教えてくれました。すべての交流は平等、尊重、友好の基礎で展開され、きっと私の真心を伝えることができれば、参加者の良いリアクションも受け取ることができます。中日異文化への理解と包容力も上がります。

中国には「求同存異」という古い言葉があります。共通点を求め合わない、一緒に歩けない、それぞれの違いを残さないと、遠くまで行けませんという意味です。本日皆さんのスピーチを聞き、共通点や違いを見つけたり、話し合ったりできることを楽しみにしてきました。今後も世界中の共通点を求めて、お互いを尊重する事に力を尽くしたいと思っています。

ご清聴ありがとうございました。

